



最初にお読みください

## CentreCOM® GS900M V2シリーズ リリースノート

この度は、CentreCOM GS900M V2 シリーズ (CentreCOM GS908M V2/GS908M V2-4PS/GS916M V2/GS924M V2。以下、特に記載がないかぎり、「本製品」と表記します) をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

### 1 ファームウェアバージョン 2.4.1

### 2 重要：製品リビジョンに関する注意

製品リビジョン Rev.D1Y および Rev.E1 以降の製品にファームウェアをダウンロードする場合は、必ず本バージョン (2.4.1) 以降の製品をご使用ください。(GS908M V2-4PS を除く) ファームウェアバージョン 2.3.3 以前のファームウェアでは、Rev.D1Y および Rev.E1 以降の製品への対応が行われていないため、Rev.D1Y および Rev.E1 以降の製品での使用はサポート対象外となります。

製品リビジョンは、本製品の底面に貼付されているシリアル番号シール (バーコード) に記載されています。

### 3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.3.3 から 2.4.1 へのバージョンアップ (GS908M V2-4PS のみ 2.4.0 から 2.4.1 へのバージョンアップ) において、以下の項目が修正されました。

- 3.1 (GS908M V2/GS916M V2/GS924M V2 のみ) SHOW DEBUG コマンド実行時に、本製品宛て Ping のタイムアウトやスパニングツリープロトコル (STP/RSTP/MSTP) のトポロジーチェンジが発生する場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.2 SFP ポートの通信速度とポートランキング設定の組み合わせによっては、本製品の起動時に SFP ポートで正常にリンクアップするものの、通信ができない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.3 (製品リビジョン Rev.D1Y および Rev.E1 以降の GS908M V2/GS916M V2/GS924M V2 のみ) SFP スロットに装着した AT-SPBD10-14 が本製品の再起動後、リンクアップしない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.4 (製品リビジョン Rev.D1Y および Rev.E1 以降の GS908M V2/GS916M V2/GS924M V2 のみ) 起動時、光 SFP モジュールを使用しているポートで、ログに「Fiber」が表示されないポートがありましたでしたが、これを修正しました。

- 3.5 (製品リビジョン Rev.D1Y および Rev.E1 以降の GS908M V2/GS916M V2/GS924M V2 のみ) 通信モードが 1000M Full Duplex 固定に設定された光ポート (SFP ポート) に対して、物理的にリンクダウンさせる設定ができませんでしたが、これを修正しました。  
DISABLE SWITCH PORT コマンドによる LINK=DISABLE の設定、および SET SWITCH LOOPDETECTION/STORMDETECTION コマンドによる ACTION=LINKDOWN の設定が該当し、本設定の使用が可能となりました。
- 3.6 (製品リビジョン Rev.D1Y および Rev.E1 以降の GS908M V2 のみ) SFP ポートで 1000BASE-T の SFP を使用しているとき、SFP ポートを DISABLE SWITCH PORT コマンドの LINK パラメーターの指定で物理的にリンクダウンさせても、対向機器のポートがリンクダウンしませんでした。これを修正しました。
- 3.7 (製品リビジョン Rev.C1 以降の GS916M V2/GS924M V2 のみ) AT-SPFX/15 による 100Mbps 光ポート同士の接続において、一方の機器を再起動すると、もう一方の機器で SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される Errors (エラーを含んでいるために破棄された受信パケット数) カウンターが、不正にカウントされることがありましたが、これを修正しました。

## 4 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン 2.4.1 には、以下の制限事項があります。

### 4.1 ログ

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

(製品リビジョン Rev.D1X 以前の GS908M V2/GS916M V2/GS924M V2 のみ) 起動時、光 SFP モジュールを使用しているポートで、ログに「Fiber」が表示されないポートがあります。これは表示だけの問題で動作には影響しません。

### 4.2 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- SHOW INTERFACE コマンドで表示される ifMTU の値および SNMP で取得可能な ifMTU の値が正しくありません。  
9196 と表示されますが、正しくは 9194 です。

### 4.3 RADIUS サーバー

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**

- 802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。
- RADIUS アカウンティング機能が有効時に、RADIUS サーバーから Access-Reject パケットを受信すると、本製品から Failed 属性が付加された Accounting-Request パケットが送信されます。
- ポート認証で RADIUS サーバーを 2 台登録し、かつ 2 台の RADIUS サーバーの共有パスワード (Secret 値) を異なる文字列に設定すると、認証に成功しない場合があります。

ポート認証で2台のRADIUSサーバーを利用する場合は、Secret値を同じ文字列に設定してください。

---

#### 4.4 スイッチング

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- (GS908M V2/GS916M V2/GS924M V2のみ) スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTOのいずれかに設定を変更した場合、link-down、link-upメッセージが表示されないポートがあります。
- (製品リビジョン Rev.D1X以前のGS908M V2/GS916M V2/GS924M V2のみ) 通信モードが1000M Full Duplex固定に設定された光ポート(SFPポート)に対して、物理的にリンクダウンさせる設定を行わないでください。  
DISABLE SWITCH PORT コマンドによるLINK=DISABLEの設定、およびSET SWITCH LOOPDETECTION/STORMDETECTION コマンドによるACTION=LINKDOWNの設定が本制限に該当します。
- (製品リビジョン Rev.D1X以前のGS908M V2のみ) SFPポートで1000BASE-TのSFPを使用しているとき、SFPポートをDISABLE SWITCH PORT コマンドのLINKパラメーターの指定で物理的にリンクダウンさせても、対向機器のポートがリンクダウンしません。
- (製品リビジョン Rev.B1以前のGS916M V2/GS924M V2のみ) AT-SPFX/15による100Mbps光ポート同士の接続において、一方の機器を再起動すると、もう一方の機器でSHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示されるErrors(エラーを含んでいるために破棄された受信パケット数)カウンターが、不正にカウントされることがあります。
- (GS908M V2-4PS/GS916M V2/GS924M V2のみ) ポートを無効に設定しているとき、ハードウェアの仕様により、パケットを受信した際のLINK/ACT LEDの点灯動作がポート範囲によって以下のように異なります。  
ポート1～8では点灯し、ポート9以降では点滅します。
- (製品リビジョン Rev.D1X以前のGS908M V2/GS916M V2/GS924M V2のみ) SFPスロットに装着したAT-SPBD10-14が本製品の再起動後、リンクアップしない場合があります。

---

#### 4.5 フローコントロール

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

(GS916M V2/GS924M V2のみ) DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでコンポートのフローコントロールを無効に設定しても、設定が反映されません。

---

#### 4.6 ポートランキング

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

トランクグループを以下のいずれかの条件で複数作成し、512個以上のMACアドレスが使用される通信が発生している状態で、トランクポートの追加と削除を繰り返し実施すると、本製品がリポートすることがあります。

- ・ トランクグループの所属ポートに512個以上のスイッチフィルターが登録されている
- ・ トランクポートの通信モードがポート本来の通信モードと異なる設定になっている

## 4.7 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

- IGMP Snooping 有効時、IGMP パケットの通信中にグループの所属 VLAN を変更すると、IGMP Snooping 用のテーブルから変更前の VLAN 情報が削除されません。
- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウエアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。  
なお、EPSR アウエアについては、CREATE EPSR コマンドの DELETEMCAST オプションで、リングトポロジーチェンジ発生時にマルチキャストグループのエントリを FDB から削除する設定が可能です。
- マルチキャストグループをスタティック登録するには、あらかじめ SET IGMP Snooping コマンドの ROUTERPORT パラメーターでルーターポートを設定する必要があります。このとき指定するポートが複数の VLAN に所属していた場合、ADD IGMP Snooping MCGROUP コマンドの NUMBER パラメーターで同時に複数のマルチキャストを登録する際に、学習可能なマルチキャストグループの最大数を超える設定をしようとして、「Warning: 52 addresses were not able to be added from multicast group address (224.1.1.13)」のようなエラーが表示され、その後、DELETE IGMP Snooping コマンド、SHOW IGMP Snooping コマンドを実行するか、SHOW CONFIG コマンドに DYNAMIC パラメーターを指定して実行するとリポートが発生します。この現象を回避するには、以下を参考にグループ数の最大を超えないように設定してください。
  - ・ マルチキャストグループの最大数はデフォルトで 64 個だが、SET IGMP Snooping コマンドの NUMBERMULTICASTGROUPS パラメーターにより変更することが可能
  - ・ ルーターポートが複数の VLAN に所属する場合、VLAN の数だけエントリ数を消費する

## 4.8 スパニングツリー

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」**

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

## 4.9 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

Web GUI でマルチプル VLAN(Protected Port 版)のポート設定を行う際、グループ番号の設定変更とタグなし / タグ付きの設定変更を同時に行うことができますが、個別に変更するようにしてください。

グループ番号の変更とタグなし→タグ付きの変更を同時に行った場合、該当ポートがタグなしとしてデフォルト VLAN にも追加されます。

## 5 マニュアルの補足・誤記訂正

最新マニュアル（取扱説明書、コマンドリファレンス）の補足事項および誤記訂正です。

### 5.1 オートファンコントロール (GS908M V2-4PS のみ)

参照 「取扱説明書」 77 ページ

ファームウェアバージョン 2.3.2 から、動作時温度（外気温度）に応じたファンの回転を低速回転 / 高速回転の 2 段階に変更しました。ファンが低速回転 / 高速回転を開始する外気温度の目安は以下のとおりです。

条件	低速回転開始	高速回転開始
全標準ポート使用時（100%負荷）	15℃	40℃
全標準ポート + SFP ポート使用時（100%負荷）	15℃	40℃

### 5.2 PoE 最大供給電力 90W 対応にともなう仕様変更 (GS908M V2-4PS のみ)

参照 「取扱説明書」 13、40、41、58、76、77 ページ

参照 「コマンドリファレンス」 / 「PoE」

ファームウェアバージョン 2.4.0 から、装置全体の PoE 最大供給電力を 75W から 90W に拡張し、以下の仕様が変更されました。

- PoE 供給電力により下記の仕様差があります。

PoE 供給電力	75W 時	90W 時
最大入力電流（実測値）	1.3A	1.6A
平均消費電力	58W（最大 110W）	66W（最大 130W）
平均発熱量	210kJ/h（最大 400kJ/h）	240kJ/h（最大 470kJ/h）
動作保証温度	0 ~ 50℃※ 1	0 ~ 45℃※ 2

※ 1 PoE 供給電力 75W までの動作保証温度

※ 2 PoE 供給電力 75W を超えて 90W までの動作保証温度

- 動作時温度に応じたファンの回転数を次のとおり変更しました。

	バージョン 2.3.3 まで	バージョン 2.4.0 から
低速回転	3000rpm	4000rpm
高速回転	5000rpm	5000rpm

- SET POE GUARDBAND コマンドで設定する PoE 電源最大供給電力のガードバンドの上限を 70W から 85W に変更しました。

### 5.3 ファンアラーム (GS908M V2-4PS のみ)

参照 「取扱説明書」 77 ページ

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品のファン回転には低速回転（4000rpm） / 高速回転（5000rpm）の 2 段階があり、それぞれ 75% 未満の回転時を異常状態として warning アラームを発行する仕様になっていますが、FAN Low(warning) から FAN High(warning) へ移行する場合とその逆の場合で、アラーム発行の動作が異なります。

FAN Low(warning) から FAN High(warning) へ移行する場合は、warning 状態は継続されますが、一度 recover アラームが発行された後、再度 warning アラームが発行されます。

FAN High(warning) から FAN Low(warning) へ移行する場合は、warning アラームは発行されず、warning の状態が引き継がれたままとります。

## 5.4 LOOPDETECTION/STORMDETECTION トラップ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

コマンドリファレンスの以下のコマンドで LOOPDETECTION/STORMDETECTION トラップについての記載に誤りがありました。

- ADD SNMP COMMUNITY
- CREATE SNMP COMMUNITY
- DELETE SNMP COMMUNITY
- DISABLE SNMP TRAP
- ENABLE SNMP TRAP
- SHOW SNMP TRAP

それぞれのトラップの説明は正しくは以下のとおりですので、訂正してお詫びいたします。

LOOPDETECTION :

LDF 検出においてループ検出 / アクション実行 / アクションのタイムアウトや、ENABLE SWITCH PORT コマンドの設定によるアクション実行前の状態への復旧時に送信されるトラップ

STORMDETECTION :

受信レート検出においてパケットストーム検出 / アクション実行 / アクションのタイムアウトや、ENABLE SWITCH PORT コマンドの設定によるアクション実行前の状態への復旧時に送信されるトラップ

## 5.5 ハードウェアパケットフィルタ機能 (GS908M V2-4PS のみ)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「クラシファイア」

ファームウェアバージョン 2.4.0 から、ハードウェア (ASIC) レベルで入力パケットをフィルタリング (許可・拒否) するハードウェアパケットフィルタ機能をサポートしました。フィルタリング条件はヘッダ情報に基づいてパケットを分類するクラシファイアによって定義し、送信元 MAC アドレス、始点・終点 IP アドレス、プロトコル (ARP のみ) を使用できます。条件に一致したパケットに対しては、許可 (permit) または破棄 (deny) の処理が指定できます。クラシファイアの詳細についてはコマンドリファレンス「クラシファイア」を参照してください。

- ハードウェアパケットフィルタは、複数のエントリをリストとして保持する「アクセスコントロールリスト (ACL)」から構成されます。エントリは、クラシファイア (汎用パケットフィルタ) とアクション、および適用対象のスイッチポート (入力ポート) で構成されます。パケット受信時のフィルタ処理の大きな流れとしては、受信したパケットがエントリにマッチするかどうか、ACL のエントリ ID の番号順に調べ、条件にマッチした場合は、残りの条件は調べずにその条件のアクションを実行し、エントリにマッチしないパケットは出力します。
- ACL の仕様は、次のとおりです。
  - 最大エントリ数は 64 個
  - 同一ポートに複数のエントリを割り当てることができる (ただし、同じクラシファイアを含むエントリを、同一ポートに割り当ててはできない)
  - 同一エントリを複数ポートに割り当てることができる
  - 1 ポートに割り当てられるクラシファイアの数、128 個まで (ポリシーベース QoS とハードウェアパケットフィルタ機能合わせて)

- 同一のクラシファイアを、ポリシーベース QoS とハードウェアパケットフィルタ機能の両方で使用可能
- ACL 設定時の注意事項は、次のとおりです。
  - スイッチ本体（CPU）宛てのパケットに対し、ハードウェアパケットフィルタ機能は動作する
  - ハードウェアパケットフィルタと DHCP Snooping を併用した場合、DHCP パケットにはハードウェアパケットフィルタのフィルタリングは優先されず、DHCP Snooping による DHCP パケットの通信が許可される
  - ACL からエントリーを削除しても、クラシファイアは削除されず、ACL とクラシファイアの関連付けが削除される。クラシファイアを削除するには、DESTROY CLASSIFIER コマンドを使用する
  - ハードウェアパケットフィルタでの ACL のエントリーにクラシファイアを割り当てた後、クラシファイアの設定を変更することはできない。クラシファイアの設定を変更するには、設定を解除してから行う
- ACL にエントリーを追加するのは CREATE ACL コマンドで、ACL エントリーの設定を変更するのは SET ACL コマンドで行います。

#### コマンド

```
CREATE ACL=0..255 [DESCRIPTION=string] [ACTION={DENY|PERMIT}]  
[CLASSIFIERLIST={rule-list|NONE}] [PORTLIST={port-  
list|ALL|NONE}]  
  
SET ACL=0..255 [DESCRIPTION=string] ACTION={DENY|PERMIT}  
CLASSIFIERLIST={rule-list|NONE} PORTLIST={port-  
list|ALL|NONE}
```

#### パラメーター

ACL: 作成・変更するエントリーの ID。エントリーを作成するとき、ID は連番でなくてもかまわない。

DESCRIPTION: エントリーの説明（1～31 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む）。

ACTION: パケットがクラシファイアに一致したときのアクション。PERMIT（許可）、DENY（破棄）から選択する。エントリー作成時のデフォルトは DENY。

CLASSIFIERLIST: ACL に対応づけるクラシファイアの ID を指定する（1～9999。ハイフン、カンマを使った複数指定も可能）。エントリー作成時のデフォルトは NONE

PORTLIST: ACL を割り当てるポートを指定する（1～。ハイフン、カンマを使った複数指定も可能）。エントリー作成時のデフォルトは NONE

#### 備考・注意事項

作成したエントリーの順番を変えるときは、エントリーを削除し、作成し直す必要がある。

CREATE/SET CLASSIFIER コマンドで ACL に対応づけるクラシファイアを作成 / 設定するときに指定できるパラメーターは、MACSADDR/MACSMASK/PROTOCOL（ARP のみ指定可）/IPSADDR/IPDADDR。それ以外のパラメー

ターを設定したクラシファイアを ACL に関連付けた場合の動作はサポート対象外となる。

### コマンド例

- ポート 6 で送信元 MAC アドレスが 00-00-f4-33-22-11 のパケットを破棄  
CREATE CLASSIFIER=1 MACSADDR=00-00-f4-33-22-11  
CREATE ACL=1 ACTION=DENY CLASSIFIERLIST=1 PORTLIST=6
- すべてのポートで 192.168.20.100 のみ双方向の通信を許可  
CREATE CLASSIFIER=1 IPDADDR=192.168.20.100/32  
CREATE CLASSIFIER=2 IPSADDR=192.168.20.100/32  
CREATE CLASSIFIER=3 PROTOCOL=ARP  
CREATE CLASSIFIER=4  
CREATE ACL=1 ACTION=PERMIT CLASSIFIERLIST=1 PORTLIST=ALL  
CREATE ACL=2 ACTION=PERMIT CLASSIFIERLIST=2 PORTLIST=ALL  
CREATE ACL=3 ACTION=PERMIT CLASSIFIERLIST=3 PORTLIST=ALL  
CREATE ACL=4 ACTION=DENY CLASSIFIERLIST=4 PORTLIST=ALL

- ACL エントリーの削除は DESTROY ACL コマンドで、ACL の設定を工場出荷時の状態に戻すのは PURGE ACL コマンドで行います。

### コマンド

**DESTROY ACL=0..255**

**PURGE ACL**

### パラメーター

ACL: 削除するエントリーの ID。

- ACL エントリーの表示は SHOW ACL コマンドで行います。

### コマンド

**SHOW ACL[={id-list|ALL}]**

### パラメーター

ACL: 表示するエントリーの ID (0 ~ 255)。ハイフン、カンマを使った複数指定も可能)。省略時および ALL を指定した場合は、すべてのエントリー情報が表示される。

### 入力・出力・画面例

Manager > show acl	
-----	
ACL ID .....	1
Description .....	
Action .....	Deny
Classifier List .....	1
Port List .....	8
Is Active .....	Yes
ACL ID	エントリーの ID

Description	エントリーの説明
Action	パケットがクラシファイアに一致したときのアクション。Permit または Deny
Classifier List	クラシファイアの ID
Port List	エントリーを割り当てるポート
Is Active	エントリーがポートに割り当てられている (Yes) または、割り当てられていない (No)

- ACL に割り当てられているクラシファイアごとのカウンターの表示は SHOW ACL COUNTER コマンドで行います。

#### コマンド

**SHOW ACL[={id-list|ALL}] COUNTER**

#### パラメーター

**ACL**: 表示するエントリーの ID (0 ~ 255。ハイフン、カンマを使った複数指定も可能)。省略時および ALL を指定した場合は、すべてのエントリー情報が表示される。

#### 入力・出力・画面例

```

Manager > show acl counter

```

ACL	Classifier	Hit Counter
1 ACL 1	1 Classifier 1	334412
2 ACL 2	2 Classifier 2	1349
3 ACL 3	3 Classifier 3	1394055485
4 ACL 4	4 Classifier 4	4348500

ACL	ACL ID と CREATE ACL コマンドで設定したエントリーの説明を表示。設定されていない場合、"ACL id" フォーマットで表記
Classifier	クラシファイア ID と CREATE CLASSIFIER コマンドで設定したクラシファイアの説明を表示。設定されていない場合、"Classifier id" フォーマットで表記
Hit Counter	フィルターにマッチした数を表示

- 指定された ACL に割り当てられているクラシファイアのカウンターのリセットは RESET ACL COUNTER コマンドで行います。

#### コマンド

**RESET ACL[={id-list|ALL}] COUNTER**

#### パラメーター

**ACL**: カウンターをリセットするエントリーの ID (0 ~ 255。ハイフン、カンマを使った複数指定も可能)。省略時および ALL を指定した場合は、すべての ACL に割り当てられているクラシファイアのカウンターをリセットする。

---

## 5.6 ポリシーベース QoSの最大帯域

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」 / 「ポリシーベース QoS」

コマンドリファレンスの「最大帯域（帯域制限）」についての記載に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

Note - 実際に制限される帯域は、MAXBANDWIDTH パラメーターで設定された最大帯域幅より高いレートとなる場合があります。トラフィックのフレームサイズが小さいほど誤差が大きくなり、最大 15Mbps 程度の誤差が発生します。

正：

Note - 本機能はネットワークの帯域幅ではなく、実際に転送するフレームに対する L2 ヘッダーを含むデータの転送速度の帯域を制限します。

MAXBANDWIDTH パラメーターで設定される最大帯域幅にはイーサネットフレームのプリアンブルなどのオーバーヘッドは含まれないため、トラフィックのフレームサイズが小さいほど誤差が大きくなり、設定値に対して最大 1.5 倍程度の誤差が発生します。

---

## 5.7 SET SWITCH PORT コマンド

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

コマンドリファレンスの SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターについての記載に一部誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

GS908M V2 の SFP ポートおよび GS916M V2、GS924M V2 のコンポポートでは AUTONEGOTIATE または 1000MFULL のみ設定可能。GS908M V2-4PS の SFP ポートでは AUTONEGOTIATE、100MFULL または 1000MFULL を設定可能。

正：

GS908M V2 の SFP ポートでは AUTONEGOTIATE または 1000MFULL のみ設定可能。GS916M V2、GS924M V2 のコンポポートおよび GS908M V2-4PS の SFP ポートでは AUTONEGOTIATE、100MFULL または 1000MFULL を設定可能。

---

## 5.8 SHOW SWITCH PORT コマンド

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

コマンドリファレンスの SHOW SWITCH PORT コマンドで表示される Port Type(Combo Actual) についての記載に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

ポートの種類。コンボ（共用）ポートの場合は、コンポポートの設定により、次のように表示。FIBERAUTO 設定時はリンクしているメディア、FIBER 設定時は 1000Base-X SFP、COPPER 設定時は 10/100/1000BASE-T

正：

ポートの種類。コンボ（共用）ポートの場合は、コンポポートの設定により、次のように表示。FIBERAUTO 設定時はリンクしているメディア、FIBER 設定時は 100Base-X SFP（100MFull 設定時）、1000Base-X SFP（Autonegotiate 設定時）、COPPER 設定時は 10/100/1000BASE-T

---

## 5.9 トランクグループに所属するポートの VLAN 設定変更

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

ファームウェアバージョン 2.3.2 から、トランクグループに所属するポートの VLAN 設定を変更することが可能になりました。

## 5.10 トランキングアルゴリズム

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

コマンドリファレンスのトランキングアルゴリズムについての記載に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

■ トランクグループを通るパケットはすべて、トランキングアルゴリズムによって割り振られます。このアルゴリズムは、送信元 / 宛先 IP アドレス、TCP/UDP ポート番号（送信元、宛先）と接続ポート数によって計算します。

正：

■ トランクグループを通る学習済みのユニキャストフレームは、トランキングアルゴリズムによって割り振られます。このアルゴリズムは、以下によって計算します。

- ARP 等の L2 フレーム：送信元 / 宛先 MAC アドレス
- IP パケット：送信元 / 宛先 IP アドレス

ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストフレームはリンクが確立しているトランクグループの最小ポート番号に割り振られます。

## 5.11 LDF 検出

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- LDF のデフォルト送信間隔は 120 秒です。LDF の検出時間を短くしたいときは、SET SWITCH LOOPDETECTION コマンドの INTERVAL パラメータで送信間隔を短く設定してください。LDF 検出機能の効果を最大にするには、送信間隔を最小値の 1 秒に設定する必要があります。ただし、送信間隔を短くするとソフトウェア処理に負荷がかかり、本製品宛て通信の応答時間など、他の機能の動作性能が低下する可能性があります。
- 配下の HUB やスイッチにて輻輳などにより LDF が消失した場合、ループを検出できない場合があります。

## 5.12 EPSR (トランジットノード) 有効化時の動作

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSR アウェア」

ファームウェアバージョン 2.1.1 から、EPSR (トランジットノード) を有効化するときリング接続ポートが両方ともリンクアップしている場合の動作 (各種状態の設定) を次のとおり変更しました。

	バージョン 2.1.0 まで	バージョン 2.1.1 から
EPSR ドメインの状態	Links-Up	Pre-Forwarding
リングを構成する第 1 ポートの状態	Forwarding	Forwarding
リングを構成する第 2 ポートの状態	Forwarding	Blocking

## 5.13 EPSR リングポートと LDF の併用

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSR アウェア」

ファームウェアバージョン 2.3.2 から、EPSR リングポートと LDF 検出機能の併用が可能になりました。

## 5.14 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

- ポート認証機能において、SET AUTHENTICATION コマンドの DEAD-ACTION パラメーターに PERMIT を指定し、RADIUS サーバーからの応答がないときに通信を許可するように設定する場合は、下記の条件を満たすように各パラメーターを設定してください。

**SERVERTIMEOUT > TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) × RADIUS サーバー数**

**SERVERTIMEOUT** SET PORTAUTH PORT コマンドのパラメーター。デフォルト 30 秒  
(MAC ベース認証ポートでは 30 秒固定)

**TIMEOUT** SET AUTHENTICATION コマンドのパラメーター。デフォルト 6 秒

**RETRANSMITCOUNT** SET AUTHENTICATION コマンドのパラメーター。デフォルト 3 回

**RADIUS サーバー数** ADD RADIUSSERVER SERVER コマンドで登録した RADIUS サーバーの数

特に RADIUS サーバーを 2 台登録する場合は、各パラメーターがデフォルトのままだと条件を満たさないため、条件を満たすように設定を変更する必要があります。

- ポート認証機能でゲスト VLAN やダイナミック VLAN を使用し、Supplicant が DHCP サーバーから IP アドレスを取得する場合は、認証前の VLAN において DHCP サーバーのリースタイムを短く設定する必要があります。

## 5.15 リンクダウンをともなわない認証ポートの移動

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

ファームウェアバージョン 2.3.2 から、802.1X 認証、WEB 認証において、リンクダウンをともなわない認証ポートの移動が可能になりました。

## 5.16 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」 / 「マネージメント」**

Internet Explorer 7 以上を使用し、コンフィグファイルやファームウェアを転送する場合の注意事項に、Internet Explorer 9 に関して以下のとおり補足します。

- 「Internet Explorer 7 以上を使用する場合の注意」の Note を下記のように変更します。

変更前：

Note - 本設定は、Internet Explorer 7 ではデフォルト有効に、Internet Explorer 8 ではデフォルト無効になっています。

変更後：

Note - 本設定は、Internet Explorer 7 ではデフォルト有効に、Internet Explorer 8 / 9 ではデフォルト無効になっています。

- 「Internet Explorer 8 を使用する場合の注意」の見出し名を「Internet Explorer 8 / 9 を使用する場合の注意」に変更し、最初の説明文を下記のように変更します。

変更前：

Internet Explorer 8 で SmartScreen フィルター機能を有効にしていると、設定ファイルの取得に時間がかかる場合があります。この現象を回避するには、以下の方法を実行してください。

変更後：

Internet Explorer 8 / 9 で SmartScreen フィルター機能を有効にしていると、設定ファイルの取得に時間がかかる場合があります。この現象を回避するには、以下の方法を実行してください。

## 5.17 ADD IGMP Snooping MCGROUP コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

ADD IGMP Snooping MCGROUP コマンドの「入力・出力・画面例」の記載内容に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

```
Manager > add igmpsnooping vlan=2 mcgroup=224.1.1.1
```

正：

```
Manager > add igmpsnooping mcgroup=224.1.1.1
```

## 5.18 ポートミラーリング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポートミラーリング」

ポートミラーリング機能の特徴（7 個目）において記載内容に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

ソースポートを複数設定している状態で、あるソースポートから入力されたパケットが、L2 スwitchングされて別のソースポートから出力された場合、ミラーポートにはパケットが **1 個** だけ出力されます。

正：

ソースポートを複数設定している状態で、あるソースポートから入力されたパケットが、L2 スwitchングされて別のソースポートから出力された場合、ミラーポートにパケットが **2 個** 出力されます。

※これはポートミラーリングの通常動作です。

## 5.19 ダイナミック VLAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」 / 「ダイナミック VLAN」

ダイナミック VLAN の説明において、表 11 の認証サーバー（RADIUS サーバー）の設定値に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

```
Tunnel-Private-Group-ID : 20
```

正：

```
Tunnel-Private-Group-ID : 10
```

## 6 サポートリミット一覧

パフォーマンス	
VLAN 登録数	256
MAC アドレス (FDB) 登録数	8K
IPv4 ホスト (ARP) 登録数	-
IPv4 ルート登録数	-
リンクアグリゲーション	

グループ数（筐体あたり）	GS908M V2 : 4 GS908M V2-4PS : 5 GS916M V2 : 8 GS924M V2 : 8
ポート数（グループあたり）	8
ハードウェアパケットフィルタ	
登録数	GS908M V2 : - GS908M V2-4PS : 64 GS916M V2 : - GS924M V2 : -
認証端末数	
認証端末数（ポートあたり）	320
認証端末数（装置あたり）	480
マルチプルダイナミック VLAN（ポートあたり）	8
マルチプルダイナミック VLAN（装置あたり）	8
ローカル RADIUS サーバー	
ユーザー登録数	-
RADIUS クライアント（NAS）登録数	-
その他	
VRP-Lite インターフェース数	-
IPv4 マルチキャストルーティングインターフェース数	-

※ 表中では、K=1024

## 7 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（パラメーター）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
SET SYSTEM FAN
RESET PORTAUTH PORT
LOAD METHOD=TFTP FILE=filename SERVER=ipadd BOOT
SET IGMP Snooping HOSTSTATUS
SET MLDSNOOPING HOSTSTATUS
SHOW DHCP Snooping DATABASE NVS
SHOW DHCP Snooping HWFILTER
```

## 8 最新マニュアルについて

最新の取扱説明書「CentreCOM GS900M V2 シリーズ 取扱説明書」（613-001184 Rev.B）、コマンドリファレンス「CentreCOM GS900M V2 シリーズ コマンドリファレンス 2.3.2」（613-001180 Rev.E）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、これらの最新マニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>